

ふじミュ－自然系文化祭
自然史しずおか祭 2019
横山謙二



自然史しずおか祭 2019



来館者に説明する地質・化石研究部会の関口君。

2019年11月3日から10日にかけて、ふじミュ－自然系文化祭『自然史しずおか祭 2019』を開催しました。自然史しずおか祭は、ふじのくに地球環境史ミュージアムで働いている研究員、サポーター、インタープリター、NPO 自然博ネットなどの人たちが行なっている研究や活動を発表（ポスター発表）する場として2017年からはじめたもので、今年で3回目となります。今年の発表は22テーマで、地質・化石が7、昆虫が9、植物2、魚類2、その他2でした。昨年と同様に、やはり昆虫の発表が多く集まりました。その昆虫の発表は、新しく記録された外来種についてや、長年の調査によって明らかになったことなどの内容でした。ここ3年間、自然史しずおか祭を行っていますが、昆虫についての話題や研究は、まだまだつきないようです。

常連発表者が多くいる中、今年は地質・化石研究部会から、小学生2名が参加してくれました。小学生とはいえ、そのオリジナル性や努力は、大人顔負けのものがああります。3日に行なわれたコアタイム時には、自分たちの研究を、誇らしげに発表する様子が見られました。

またサポーターの駿河一郎さんは、昨年の自然史しずおか祭を見て今年はぜひ参加しようと、魚類の骨格標本を1年間試行錯誤しながら作りためてきたそうです。

今年の発表は、新期参加者も加わり、お互いの研究や活動内容について理解を深めるこ



さまざまな発表を聞く来館者。

とができ、そして多くの方に私たちの研究や活動を理解してもらうきっかけになったと思います。

来年もまた、自然史しずおか祭を行ないたいと思います。みなさんの中にも、長年の調査を公開したい、こんな発見をしましたなど、発表したいものを持っている人がいると思います。そんな方は、来年の自然史しずおか祭で発表されてはいかがでしょうか。ポスター作製は模造紙などに手書きや切り貼りしたものでかまいません。発表題と所属・名前を明記したものと、簡単な要旨を書いて、10月中旬までに、NPO 横山まで（ふじのくに地球環境史ミュージアム内 NPO 事務所）もってきて来てください。

ふじミュー自然系文化祭『自然史しずおか祭, 2019』発表リスト

地質・古生物

- 化石クリーニングにおける CT 機器の活用例 西岡佑一郎
- 静岡市草薙から新たに発見！ナウマンゾウの切歯 横山謙二・柴 正博・宮澤市郎
- 写真で見る安倍川の姿 長谷川静夫
- 島嶼固有動物の分布と 43 万年前以降の 1,000m の海水準上昇 柴 正博
- 有度丘陵と駿河湾の形成 柴 正博
- 天竜川・富士川の岩石はどんなちがいがあるか 関口航太
- こんなにちがう！恐竜の歯 ～恐竜の絵では分からない歯の世界～ 佐藤 歩
- 地中レーダー（GPR）による浜名川の河口閉塞の状況 山田和芳・菅原大助

昆虫

- チョウトンボの翅色と斑紋の変異の分析 福井順治
- 静岡県のウスバカゲロウ（アリジゴク）の記録 福井順治
- シンジュサンによる養蚕が日本古代に存在したか？ 鈴木英文
- 謎のステルス外来種 イワサキケブカカミキリ 小堀 健
- 伊豆・小笠原諸島のアサギマダラの移動記録 清 邦彦
- 黒づくめの外来種タイワンタケクマバチを清水区三保海岸で確認 平井剛夫
- スギタニルリシジミの分布拡大の傾向 諏訪哲夫
- ヤクシマルリシジミの分布拡大 鈴木英文
- 静岡県への新規侵入外来昆虫と警戒すべき種 岸本 年郎

植物・脊椎動物など

- 植物を「作る」- 立体植物図鑑の試み 2019 - 寺内恭子
- 静岡県を分布の限界とするシダ植物 杉野孝雄
- 世界農業遺産「静岡の茶草場農法」にはどんな動植物がいるのか？
早川宗志・浦山幸雄・杉野孝雄・杉本武・鈴木英文・
諏訪哲夫・平井克男・福井順治・三宅飛鳥・三宅 隆
- 一魚の歯医者よりー 駿河一郎
- 「ペーパークラフトの動物たち」 篠崎 勇
- ミュージアム自然観察路の自動カメラに写った動物たち 三宅 隆・三宅飛鳥